

平成28年度 学校自己評価表

学校教育目標		未来を拓く心豊かなたくましい子どもの育成 ～よく学び よく遊び 夢に向かう子ども～		達成度＝達成値÷目標値×100 評価 A：目標以上 B：達成度が目標の80%以上100%未満 C：達成度が目標の60%以上80%未満 D：達成度が目標の60%未満									
中期経営目標	短期目標	具体的な実践項目	1年後に目指す姿【評価指標】	7月	7月	7月	7月	7月	7月	年度末評価	評価結果と課題の説明（中間）		評価結果と課題の説明（年度末）
				達成値	達成率	評価	達成値	達成率	評価		達成値	達成率	
授業力を磨き、全国トップレベルの学力をつける	児童語科を通して、主体的に問題解決ができる	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ必然性のある単元を構成する 課題設定とまとめが児童の言葉できるようにする 協力・協働して学び合う（つむぎ合う）場を授業に位置づける ■目標値 85% ■標準学力調査（国語科）全国平均を上回った児童の割合85% 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて情報を選択し、課題を協力して解決することができる児童 ・「基礎・基本」定着状況調査、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、全職員が児童の実態や課題の共通認識をもつ ・児童の課題克服に向けPDCAサイクルによる授業実践・研究を行う 	82%	96%	B	児童77%	児童91%	児童B	<ul style="list-style-type: none"> 「つむぎ合い」によって1時間どのように児童が変容するかを指導案に明記し、協力して課題解決できる場面が増えてきた。 ・「基礎・基本」「全国学力調査」の結果を全職員で分析・交流をし、課題を共有化し、改善計画を策定した。 ・教員が自分で授業をふり返り改善をしていくという仕組みが十分にできていない。 →3サイクル目の授業研では、1時間毎に課題を設定し、次の授業研でその解決に向け、組織で改善できるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年末のまとめとして実施した標準学力調査の国語科では、全国平均を上回った児童の割合は、82%であった。 ・国語については、つむぎ合う時間を授業に取り入れ、互いの考えを伝えたり聞いたりすることにより学習を深めることができたが、「友達と話し合うことで自分の考えを深めていることができていく」と感じている児童は77.2%である。また、教材文だけでなく、並行読書をする中で、多くの本を読んでいるため読む力が付いてきたと考える。 →一人に合った指導や「分かった・できた」と感じられる授業の構築に向け、授業を改善していく。 →友達と意見を交わすことで学習が深まることを実感できるような授業を行う。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 主体的な読書活動を進める ・教材の並行読書、発展読書を進める ・問題解決のための情報収集を読書や調べ学習ができるようにする ■目標値 90% 	<ul style="list-style-type: none"> 読書への関心を高め、自分から本に手を伸ばす児童 ・月に1度、学級内で読書ノートの交流を行う ・学年に応じた読書目標を設定し、読書をさせる ・月に1度読み語りボランティア、教職員による読み語りを行う ・3学期の読書祭りで、自分のおすすめの本を紹介し合う 	70%	78%	C	75%	93%	B	<ul style="list-style-type: none"> 読書に苦手意識を持っていた児童が自分から本を選んで読む姿が見られるようになった。 ・毎月1度の読み語りに、ボランティア・教職員だけではなく、図書委員会や子ども司書も参加し、活躍をしている。 ・月1度学級内で読書ノートの交流を行い、効果的であった。 →読書の幅を広げられるような工夫を考えていく。 ・読書の足跡を普段から記録させているが、チェックが不十分である。 →毎月1度は担任がチェックし、頑張りや認める等声かけをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書アンケートによると、読書が好きだと答える児童が82%、大好きになった本があると答える児童が96%となり、児童が読書活動を楽しんでいることが分かる。 ・毎月1度の読み語りに、高学年の児童も参加を始めた。事前に何度も練習し、意欲的に楽しみながら活動している。 →来年度も、引き続き読み語り朝会を計画する。 ・読書祭りで読書ノートを活用して児童同士の交流を行った。 →来年度は、目的意識を持たせて読書ノートの取組を行っていく。 ・国語科の授業と読書活動を関連させ、読書の目的を持たせた。 →読書しなければならぬ状況を設定し、全員に読書をする機会を増やす。 		
		指標を力をつくり児童を育て、文芸両課題を目標とする	<ul style="list-style-type: none"> 体力面での自己課題・目標を設定できるようにする。 ・体力テストの結果の分析を進める ・学校課題や学年課題を解決するための運動を継続実施し、評価をする ■目標値 80% 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を知り、目標を持って体力づくりができる児童 ・ランニングタイムのカードを工夫し、楽しみながらランニングタイムに取り組みさせる ・体力テストの結果を分析し、課題がある項目について、月に1度ランニングタイムの時間に計測する ・ランニングタイムで、雲梯を渡り切る速さや、ぶら下がる時間を計測し、握力を鍛える ・サーキットトレーニングを体育の授業に位置づける 	75%	94%	B	75%	94%	B	<ul style="list-style-type: none"> 教師に指摘されて自己課題を知るが、自己目標の設定まではできていない。 ・ランニングカードを工夫し、意欲をもってランニングを行うことができていくが、徐々に意欲が低下しており、手立てが必要である。 ・5月の体力テストを分析し、課題を捉える事はできたが、全校に示したり、十分に児童に周知することができていない。 ・ランニングタイム時の雲梯は、継続的に取り組むことができた。 →2学期からは、うでずもう大会、握力週間を計画している。 ・体育科では、授業前のサーキット運動が定着している。 →そこへ、ミニハードルやラダーを取り入れ、より一層、走力を鍛えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己課題を知ることができているが、自己目標達成に向け、継続的に取り組むことが難しい。 ・12月以降は、ランニングタイムをなわとび朝会としたが、インフルエンザなどの影響もあり、あまり取り組みなかった。来年度より、全校体育を設定し、冬の間の中運動を工夫していく。また、インフルエンザ等の影響で、全校での活動が難しい場合は、学級での柔軟運動を続けていく。 ・11月の体力テストを分析し、課題となったものを掲示し、周知することができた。また、50M走では、改善も見られた。 ・腕相撲大会・握力週間を行い、意欲的に握力アップをしようという児童が増えた。 →体育科でのサーキット運動を改善し、より走力と柔軟性を意識した取り組みを続けていく。 	
校風を大切にしながら、豊かな心の教育を組織的に行う	他者への配慮が自然に態度や行動に現れていく	<ul style="list-style-type: none"> 人権尊重の理念の理解、体得させる ・QUアンケートを実施、分析する ・ソーシャルスキルトレーニングを取り入れる ■目標値 90% 	<ul style="list-style-type: none"> 「気づき・考え・行動する」ことのできる児童（アンケート） ・QUアンケートを教師が理解し、結果を学級経営に生かす ・ソーシャルスキルトレーニングの研修を講師を招聘し実施する 	86%	96%	B	96%	107%	A	<ul style="list-style-type: none"> 「気づき・考え・行動する」ことのできる児童 94%（1学期末） ・人権アンケート「周りに困っている人がいたら助けている」の肯定的評価は全体の90.1%であった。 ・5月にQUアンケートを実施した。学級活動等で結果のプロットを意識した取り組みを仕組んでいる。 ・ソーシャルスキルトレーニングについて入門程度の講話を聞いた。ピアサポートや人間関係づくりについて12月に講師を招き学級で実施する。 ・今後は3学期実施予定のQUアンケートの結果と児童実態調査の結果を教師間で交流し再度分析して学級経営を見直していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権アンケート「周りに困っている人がいたら助けている」の肯定的評価は全体の96.9%。学校生活アンケート「あなたは人のために働いていますか」の肯定的評価は全体の94.1%であった。 ・12月にQUアンケートを実施した。5月の結果を意識して各学級で取り組んだ結果、5月には「自己肯定的で自分も他人も受け入れられていない」に該当する児童が数人いたが、12月には0人となった。 ・12月のQUアンケートの結果から、行動や心理面で気になる児童について教師間で交流した。 ・ライフスキルトレーニングについて、講師を招いて学ぶことができた。学級での人間関係づくりで生かすことができた。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 花いっぱい活動を通して、豊かな感性を育む。 ・一人一鉢運動を実施する ・灌水、施肥、除草を児童が進んで行うようにする ■目標値 80% 	<ul style="list-style-type: none"> 花いっぱい活動を通して、生命の大切さや命をはぐむことに喜びを感じることができる。 ・季節に応じた花を学級ごとに選定し、種をまいて育てさせる ・児童が育てた花を学校美化に活用する ・育てた花の種をとり、お世話になった方へプレゼントするなどの活用方法を考えさせる 	67%	84%	B	100%	125%	A	<ul style="list-style-type: none"> 花を育てる中で、花の成長を喜んだり、うまく育たない時には、悲しんだりする児童の姿が見られた。 ・自らが育てた花が校内美化に活用されたことで、「花を育てて良かった。」と感じる児童の姿も見られた。しかし、まだ十分ではない。 ・有志の児童が、菊を育て玄關を飾った。4年生が自分たちが育てた「こけ玉」を販売した。 ・育てた花の種をプレゼントするなどの活用はまだできていない。 →児童が意欲を持って取り組むことができるようにする手立てと、花の種の活用方法を児童に考えさせることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 花を育てる中で、花を生き物として慈しみ、また、花を贈る相手を思いやる児童の姿が見られた。 ・有志の児童が、腐葉土を作っている。主体的に取り組むことができていく。 ・4年生が「こけ玉」の販売を継続して行い、学校美化のために、花を大切に育てた。 ・学級ごとに育てた花は、卒業式の会場で使用する予定である。 ・5年生が、育てた花の種を油木保育所へプレゼントした。 →児童が、より花を身近に感じ、主体的に取り組むことができるよう、「一人一鉢」を継続して行う。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 社会科や総合的な学習の時間・生活科で、地域に出かけたり、地域の方に学ぶ活動をする。 ・地域に出かけていく学習や地域の方を招く学習を設定する ■目標値 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の住んでいる地域の行事に参加したり、地域の人にあいさつをしたりする児童 ・地域に出かけたり、地域の方に来ていただいたり、地域の方に学ぶ授業を実施し、地域の方との関わりをもつ 	100%	100%	A	100%	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> どの学年、学級も地域に積極的にでかけたり、地域の方に学校へ来ていただく機会を設けた。 ・1、2年生は地域の教会への参加、3年生は地域の特産物の販売活動、4年生は地域の方を招いての体験活動、5年生はゲストティーチャーを招いての農業授業、6年生は地域の老人ホームでの福祉体験と全ての学年で地域に関わった活動を行うことができた。 →今後も地域学習を教育課程に取り入れたりと、地域人材の発掘や、人材を教科や総合的な学習の時間における位置づけについて計画を立てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで「地域の人に進んで挨拶をしている」と答えた児童は98%であった。また、3学期では、地域の方をゲストティーチャーとして招聘してお話を聞いたり、これまでお世話になったことを振り返り感謝の言葉を伝える会などを催す学年もあった。 ・来年度も総合的な学習の時間を中心に、地域人材や地域教材を活用したカリキュラムを設定している。また、人材リストを新たに設け、地域の方との交流を深めるとともに学習の効果をより深めることができるよう取り組んでいる。 ・地域に出る活動を継続するとともに、運動会や来年度から新たに創設した学習発表会を行うことで、学校の取り組みを地域に発信し、学校と地域がより密接に係ることで、児童の故郷に対する思いを深めていきたい。 		